

よこはま 支部だより

issue 2013.1.1

VOL. 58

平成 25 年度新年号！
美術館建築シリーズ・日帰りバス旅行・ほか

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部

THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●新年のご挨拶 ○横浜支部長 山成芳直	p1
●美術館建築シリーズ ～建築家吉田五十八を知る～ ○総務委員会	p2
●水まわり勉強会 ～LIXIL ヨールムセミナー～ ○技術・情報委員会	p4
●日帰りバス旅行 ～成瀬記念講堂ほか～ ○厚生委員会	p5
●テニス同好会だより ～定例会報告ほか～	p6
●ワイン同好会だより ～第 33 回同好会開催～	p8
●JFM：奈良の恋人たち ～中宮寺、弥勒菩薩～ ○樺澤正夫（横浜支部会員）	p9
●近代建築世界一周 No8 ～フィンランドの旅～ ○桜本将樹（横浜支部会員）	p10
●横浜市からのお知らせ ～木造住宅耐震改修促進事業～	p12
●ご挨拶（賛助会一同） お知らせ 編集後記	p12

編集 横浜支部広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平由之

231-0011
横浜市中区太田町 2-22 神奈川建設会館 5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

新年のご挨拶

横浜支部長 山成芳直

新年明けましておめでとうございます。会員、賛助会員の皆様には支部運営に対して格別のご協力を賜りまして誠に有難うございます。さて、日本経済は先行き不透明どころか悲観論が大半を占める厳しい状況で、皆様においてはご苦勞が絶えない毎日と存じます。そのような中において皆様に本会へ加入いただいている事は大変に有り難く、横浜支部活動が少しでも皆様のお役に立てるよう改めて心している次第です。ところで、支部活動を支えていただいている活動委員の人数は4つの委員会を併せて38名となり、幅の広い年齢層の委員が様々な事業に対して各々の出来る範囲で積極的に取り組んでいただいています。本年も様々な事業が活動委員によって提供されると思いますので皆様には是非共ご参加いただきますようお願いいたします。

明日にも日本が消滅するような悲観論がまびすしい昨今ですが、私は日本人が有史以来連綿と築き上げてきた“逞しさを有するヒューマニティ”を信じるひとりです。神奈川県建築士会においても戦後混乱期から60年間にわたって技術の研鑽や会員同士の交流を継続した結果、建築を愛し、建築を通じて社会に貢献するとのヒューマニティがDNAとして組織に醸成・蓄積され、存在していると活動を通じて感じている次第です。歴史を振り返れば、混沌とした時代もやがていずれかに収斂し、新たな価値観・スタイルの社会が到来すると思います。

私達に今、大切なのは事の大小を問わず地道に建築と取り組み続けることだと感じている次第です。その蓄積の上で来るべき時代に臨んでいくことにより個人の充実はもとより、建築士のプレゼンスも高まるのではと考えているところです。本年が皆様にとって良い一年となりますようお祈りしております。

『美術館建築シリーズ ～建築家吉田五十八(いそや)を知る～』

平成 24年9月22日(土) 総務委員会主催

総務委員 二宮智美



横浜支部のすっかり恒例となりました「美術館建築シリーズ」の第5弾、「建築家吉田五十八(いそや)を知る」をテーマに、「五島美術館」の見学会を開催しました。暑さ寒さも彼岸までとの言葉どおり、昨日までの厳しい暑さから一転して秋の気配を感じる秋分の日、リニューアルにより休館中の「五島美術館」に27人の参加者が集まりました。

参加者は、改修したばかりの集会室で、再オープン前のお忙しい中にもかかわらず、「名児耶明(なごや あきら) 五島美術館理事・学芸部長様、清水建設(株) 新聞英一副部長様、菅野元衛主査様、(株) 建文 川端修司主任研究員様、牧野徹研究員様」から、貴重なお話を伺うことができました。

《五島美術館の概要》

昭和 35 年 4 月に東急電鉄創始者の五島慶太氏所有の敷地 6,600 m²に、吉田五十八氏設計の王朝風寝殿造りの東洋古美術の美術館(1,600 m²)として開館されました。

その後、13,000 m²の敷地の寄贈を受け、別館の増築等がなされ今の規模に至りました。現在、開館 50 周年記念事業として、将来 50 年間の活動の基盤整備を目的に、増築、改修工事が行われています。

《五島美術館の特色～所蔵品》

五島美術館と言えば、国宝「源氏物語絵巻」があまりに有名です。所蔵品は、創立者五島慶太氏が戦前から戦後にかけて蒐集した日本と東洋の古美術品をもとに構成されています。五島慶太氏が寄贈した絵画、墨跡、茶道具等に加え、開館時に高梨仁三郎氏のコレクションから購入した「源氏物語絵巻」、「紫式部日記絵巻」など国宝 5 点、重要文化財 50 点を含む約 5,000 点が所蔵されています。二千年紙幣の裏面には源氏物語絵巻の一部と紫式部の肖像が描かれていますが、紫式部の肖像には複数の説があり、政府が現行紙幣の肖像に決定したのは、五島美術館の考察が決め手になったそうです。なお、「源氏物語絵巻」、「紫式部日記絵巻」を2つとも所蔵しているのは、五島美術館だけだそうです。

《五島美術館の特色～建築物》

蔵品をいかに良く見せるかが、美術館建築では求められます。吉田五十八氏は、朽木文様や松皮菱などの平安時代の意匠をデザインに取り込み、紫式部の絵に出てくるイメージを醸し出させています。寝殿造の意匠を随所に取り入れた結果、国宝の「源氏物語絵巻」や「紫式部日記絵巻」を展示するのにふさわしい建築物であると高く評価されています。サッシの枠の細さや欄干の角に支柱を立てないなど、建物をすっきり見せるデザインは、良いものはすっきり見えるという「かな文字」の感覚にも通じるとのことです。

《五島美術館のリニューアルの考え方》

吉田五十八建築を継承し再構築するというコンセプトにより、①モジュールや仕上げ、色を合わせる、②既存ディテール、構成など吉田建築を写す、③既存にない材料、色彩は使用しない、を三原則として、当時の色彩を復元し、パースによる増築部分のバランスを検証することで、あたかもそこに前から在ったかのような配慮がなされています。また、外光を入れることも可能な新しい展示室の増設など従来の一室から三室に拡充し、回遊性を持たせるとともに、増築後もオリジナルプロポーションを維持させています。さらに、共用スペースの拡充や社会的変化に伴う改修も併せて行われています。

《茶室「古経桜」の改修》

明治39年に建造された茶室（昭和15年に茶室「松寿庵」を増築）の耐震改修等も行われています。登録文化財申請中の「古経桜」は、古材を再利用し復旧するもので、建物全体をジャッキアップして布基礎を新設し、その上に既存の玉石基礎を固定し建物を据え付けました。さらに、屋根、耐震補強、造作、左官工事などを施工しており、ちょうど、耐震壁を追加するなどの耐震補強工事の様子を見学することができました。耐震補強は、合板（かぎツヨ）による耐震壁や仕口ダンパー（制振金物）の設置により、構造評定点を0.63から1.34に高めるとのことでした。

腐食木材等については、古材を極力残し、現況を忠実に復元するとともに、土壁を採取し再利用するなど、歴史的建築物の茶室の復元工事と耐震改修の貴重な施工の状況を目にすることができました。

《学芸部長から見た美術館建築のあり方》

名児耶理事・学芸部長様から、美術館建築は、「収蔵品の保存はお金がかかっても自然のままに保全できること、例えば、空調機器がおかしくなっても急激に保存環境が変化せず、蔵品事故を起こさないことや、建築物も美術品と同じように長く残したいと思わせることが大切である。古くなくても掃除して使いたくなるような建物で、展示した作品が一段格上に見えることが必要だ。」とのお話がありました。まさに、五島美術館は、美術品と寝殿造りの建物が一体化し、建築家吉田五十八氏の思いを関係者が継承していくという思いを感じました。五島美術館は、平成24年10月20日に再開館されます。リニューアルされた建物を所蔵品とともに存分に鑑賞されることをお勧めします。



【松皮菱模様を復元したロビー】



【パネルによる茶室改修工事の説明】



【茶室の耐震補強工事を見学】



【名児耶理事・学芸部長様の講演】



【美術館関係者様による講演】

『水まわり勉強会』に参加して

平成24年8月30日(木) 技術・情報委員会主催

技術・情報委員 樺澤正夫

講師に、株式会社LIXIL デザイン企画グループリーダー 宮脇伸歩氏を迎えて、平成24年8月30日(木)の午後、(株)LIXIL ショールームセミナー室で開催された。

挨拶、スケジュールの説明の後、ショールームを一巡して商品の紹介説明を受けた。

その後宮脇講師により、主に、ミラノ・サローネ2012における世界のトレンドについて、映像を示しながらの講演を受けた。ミラノ・サローネの会場は、東京ディズニーランドとディズニーシーとを合わせたような広大な敷地にあるという。

量産形ではない作品の出展が多く、一個一個が個性的であり、会場に持ってきてただ売ろうとするだけでなく、モノづくりの原点回帰を図っているという。

「モノづくりのプロセスを見せる。」ことにより、いい悪いではなく、新たな造形、モノづくりの姿勢を示そうとしている。

考え方としても、ベース+アクセント：グレーのベースにオレンジのアクセント。

素材を活かす：木を使う場合には、全体に木肌感を、塗装しても木の質感を損なわない。

《FURO》とは、身体を清潔にするだけではなく、温かい湯につかり、心や体を癒す場所とのコンセプトに、関心が集まっていたという。

日本の欧米化、海外の日本化の話。枕代わりに浴槽の縁を一部伸ばして、首までつかる欧米人。対して、浴槽に長々と寝そべった形で入浴する日本人。

また、時節柄か、リサイクル&リユースという考え方も盛り込まれたものがある。食器洗い機の熱を他の熱源とする。IHからガスコンロ・レンジへの切り替え傾向も見てとれる。一方では『私たちの生活は浪費から解放された!』というキャッチコピーもあった。

リサイクルしやすい、スモールサイズ化、コンパクト化の傾向も見てとれた。

デザイン ↔ あそび ↔ ゆとり と思索しながら、小ぶりのバスタブでもハイバックにして寛ぎタイプにしたり、寝椅子を持ち込み癒しの空間を演出したりしている。

世界の最先端を行こうとしながら、人工的なものから自然への回帰を工夫しようとしている風潮にあると感じさせてもらった。

閉会后、講師を交えて懇親を深め、有意義な時間を持つことができた。



聴講風景



熱弁をふるう宮脇講師

『秋の日帰り研修バス旅行』

～晩秋の文化財建物を巡り、イタリアンで秋の味覚を楽しむ～

平成 24 年 11 月 17 日(土) 厚生委員会主催

記: 廣澤隆志

8 時 30 分に横浜の天理ビルを出発し、日本における最初の組織的な女子高等教育機関である日本女子大学の目白キャンパスに向かいました。創立百周年を記念して建てられた 12 階建ての百年館の隣に、100 年の時を経て成瀬記念講堂（文京区有形文化財）が建っています。当初、図書館兼講堂として建築されましたが、関東大震災で被害に遭い、煉瓦積みの外壁は大破してしまいました。しかし、木造の架構が残ったことによって、内部の大きな変更を加えずに、外壁は板張りに変えて、講堂として再建されたのです。構造補強用に支柱が付加されましたが、特徴あるハンマービームとステンドグラスは健在です。

次はお目当ての、手打ちパスタの名手であり、イタリアンの鉄人として知られる神戸勝彦シェフの店「リストランテ マッサ」にて生パスタを中心に秋の味覚のコースを味わいました。まるでうどんのような太い、コシのあるパスタでした。ランチを 2 時間もかけ、昼間よりワインなんてなんと贅沢な時を過ごしたことでしょう。私たちのグループで貸し切りでした。感動したのは帰り際にシェフ・スタッフが出てこられ見送ってくれたことです。さすがレストランテ（伊語）。

午後は飛鳥山にある渋沢栄一資料館です。渋沢栄一の喜寿を祝って、大正 6 年に清水建設より寄贈された洋風茶室の晩香廬。栗材を多用した木造平屋建てで内外の賓客を迎えるレセプションルームとして使用されました。また、大正 14 年に傘寿と子爵に陞爵したお祝いを兼ねて贈られた青淵文庫は鉄筋コンクリートの書庫（及び接客空間）です。どちらも国の重要文化財に指定されています。

そして、最後は吉田茂に請われて GHQ との折衝にあたり、「従順ならざる唯一の日本人」といわれた白洲次郎・正子が住まいとした茅葺屋根の武相荘（町田市指定史跡）です。武相荘の名の由来は、武蔵の国と相模の国の境に位置することと、彼独特の一捻りしたいという気持ちから無愛想をかけて名づけたようです。

若くしてこの世を去った建築家田辺淳吉が設計にかかわった、成瀬記念講堂・晩香廬・青淵文庫を巡る旅でもありました。この洒落た企画をされた、横浜支部厚生委員会のみならず、ありがとうございました。次回も楽しみにしています。おつかれさまでした。



成瀬記念講堂にて



成瀬記念講堂: 内部



洋風茶室の晩香廬(ばんこうろ)



「テニス同好会」だより



定例会報告

平成24年7月14日(土) PM3:00~7:00

金沢産業振興センター テニスコートA面(1面) 参加8名

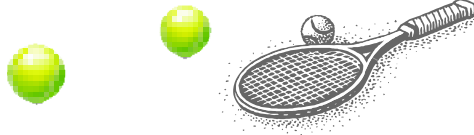
・1面でしたが、4時間でしたのでゆったりとして練習が出来ました



7月28日(土) PM1:00~3:00

金沢産業振興センター テニスコートB面(1面)参加6名

・暑い時間帯でしたが、1面なので休みながら充分練習が出来ました



8月11日(土) PM3:00~5:00

金沢産業振興センター テニスコートA・B面(2面)参加9名

暑気払いを新杉田「笑笑」にて行いました PM6:00~



8月25日(土) PM5:00~7:00

金沢産業振興センター テニスコートA面(1面)参加7名

・花火大会と重なり、車は控えました



9月8日(土) PM3:00~5:00(B面)

PM5:00~7:00(A面)

金沢産業振興センター テニスコート1面4時間 参加9名

・1面でしたが4時間だったので、それでもたっぷりできました。

今回で170回目です！あと30回で200回達成！！



9月22日(土) PM3:00~5:00(B面)

PM5:00~7:00(A面)

金沢産業振興センター テニスコート1面4時間 参加6名

だいぶ、秋めいてきて、テニスをするのには良い季節になってきました。

今回は4時間の定例会でしたが、参加者6名でちょっと少なかったです。

その分、たっぷりできて皆さん満足の様子でした。



10月6日(土) PM5:00~7:00(A・B面)

金沢産業振興センター テニスコート2面 参加6名

・いつも第2土曜日でしたが、コートが貸切の為今回は第1になりました
予定が合わない会員が多かったため少数の参加でした。

2面のテニスコートは、1面がダブルスの試合、もう1面がシングルの
試合とたつぷりと練習できた定例会でした。



臨時テニス定例会

10月13日(土) 新杉田テニスコート1面 PM5:00~7:00

・今回は、新杉田テニスコートで2時間予約が取れましたので、前回来ら
れなかったメンバーの為に臨時で開催いたしました。参加者は6名で
したが、久しぶりの参加者もあり、終了後はアフターで盛り上がりました。



10月27日(土) PM5:00~7:00(A・B面)

金沢産業振興センター テニスコート2面 参加10名

・気候はだいぶ秋らしくなり、少し寒いくらいでした。2面ということで10名
の参加があり、ゲームも盛り上がりとても充実した定例会となりました。



11月10日(土) PM3:00~7:00(A・B面)

金沢産業振興センター

テニスコート2面(4時間)参加14名

今回は、2面で4時間でしたので、た
くさんの方が参加しました。天候はとて
も良く、テニス日和でした。前半の2時
間は練習主体、後半はゲーム主体で、
とても充実の定例会でした。



終了後は懇親会に8名が参加して、来年の合宿企画等の話で盛り上がりました。

11月24日(土) PM5:00~7:00(A・B面)

金沢産業振興センター テニスコート2面参加11名

・11月も下旬となり、とても寒い日でしたが、今回も2面での定例会とい
うことで 11名の参加がありました。皆さん、寒さも気にせずゲームに熱が
入っていました。



同好会会員募集中!

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡下さい。

定例会は原則第2・4土曜日を予定していますが、予約状況により異なりますのでお問い合わせ
ください。

ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。

連絡先: 玉野 045-894-8452 FAX893-6614

「ワイン同好会」だより

～第33回ワイン同好会開催～

第33回ワイン同好会が11月2日(金)、東京ガス5階レストランにて開催されました。参加者は22名程。会費は5000円と内容から見るとかなり安いと思われます。これは幹事の方々の努力の賜物と感謝する次第です。

今回はイタリア、スペイン、アメリカ、オーストラリア、ニューワールド、産等々多種多様のワインが出回る中、ワインの原点であるフランス産をテーマに纏められていました。

白ワイン、赤ワイン、とボルドー地方、ブルゴーニュ地方それぞれの特徴のあるワインを楽しませて頂きました。個人的には最近ブルゴーニュのピノノアール系に凝っていましたが今回はピノノアールのルーージュの色に酔い、ワインに酔い堪能した有意義な時間でした。

料理はビュッフェ形式でデザートを含め沢山のワインに合うメニューが供され皆様会を充分楽しまれました。毎度の事ながら幹事の長井さんに感謝する次第です。次回は来年4月初め頃か楽しみです。

(記：丸山幸一)



<ワインリストは下記の通り>

- 1 シャブリ'10(白)(仏・ブルゴーニュ)[ドメーネ(作り手):アントワヌ・シャトレ]
シャブリ村はブルゴーニュ地方の最北端。辛口の白。ぶどう品種はシャルドネ。
- 2 リュリー・ブラン'09(白)(仏・ブルゴーニュ)[ルイ・ジャドー]
ブルゴーニュの中ほどに位置するシャロネーズ地区の産。この地区では最良のワイン。すっきりした飲み口。シャルドネ種。
- 3 サンヴェラン'09(白)(仏・ブルゴーニュ)[ペレ&フィル]
シャロネーズ地区の南隣リマコネー地区の最南端の産。さわやかな辛口と共に、フルーティーで柔らかい口当たり。シャルドネ種。
- 4 ブルゴーニュ・ルーージュ'09(赤)(仏・ブルゴーニュ)[デニ・モレット]
AOCはフランスで統制する法的規準の一種で、その中の最上級。しかし、日本が輸入する仏ワインの多くはAOC。ぶどう品種はピノ・ノワール。
- 5 ニュイ・サンジョルジュ・レ・ダーモ'05(赤)仏・ブルゴーニュ
[オリヴァー・アントワネット]コート・ド・ニュイ地区(『ロマネ・コンティ』を産するヴォーヌ・ロマネ地区に隣接)の産。作り手「オリヴァー・アントワネット」は小規模生産者。ぶどう品種はピノ・ノワール。
- 6 シャトー・デスマライユ'04(赤)(仏・ボルドー・マルゴー・格付第3級)
第一次大戦後、領地を没収されて以来世に出なかったが'80年に甦った。「成城石井」のセールコーナーに置かれていた。カベルネソーヴィニオン70%とメルロー30%と少量のカベルネフランが含まれる。香り高く、優雅さを持つ。
- 7 シャトー・ラトゥール・マルティヤック'95(赤)(仏・ボルドー・グラヴ)
メドックの南東に位置するグラヴ地区は赤・白の両方を産するのが特徴。味はグラヴのもつ柔らかく、滑らかな飲み口。カベルネ・ソーヴィニオン種60%、メルロー30%、他にカベルネフラン、プティヴェルドを含む。

コラム 奈良の恋人たち・永遠の微笑み

夏の暑い時期に法隆寺とその周辺の寺院・風景を眺めてまわった。

宗教心があるわけではないが、京都では肩が凝るのに、奈良にきてみると生まれ育った故郷に帰ったような安堵感・やすらぎを感じるのである。

千四百年という時間の経過がもたらすゆとりと和みであろうか。

法隆寺境内は限なく見学し、隣接した中宮寺、少し離れたところにある法起寺・法輪寺などの見学も楽しめ、夕焼け雲をバックにした風景写真を撮るのも楽しみである。

中宮寺の弥勒菩薩(如意輪観音像)を初めて拝観したのは、高校の修学旅行のときであったと思う。広隆寺の弥勒菩薩も優雅ではあったが、私にとってはその比ではない。

顔立ち・身体の曲線・仕草(左足を垂らし、右足を組み)、なんとも言えない雰囲気だ。スフィンクスやモナリザと並び、「世界の三つの微笑像」と呼ばれる所以である。

～中宮寺本尊 弥勒菩薩半跏思惟像 静謐な微笑みをたたえている～



観光案内所のポスター



ホームページより



本堂は、高松宮妃の発願で、吉田五十八氏の設計により1968年に建立された。

門跡寺院らしい優雅さ、尼寺らしいつつましやかさに昭和の新味を兼ね備え、枅組・組物などを一切使わない簡素なつくりの中に、高い格調を表現している。

(記：樺澤正夫)

近代建築世界一周(No.8) —フィンランドの旅—

【はじめに】

フィンランドの建築と言えば、アルヴァ・アアルトによる多岐にわたる作品群です。住宅、庁舎、ホール、教会、図書館、大学施設など、私が訪れたものだけで100程度の作品があります。そのアアルト作品の特徴を挙げるだけでも大きな魅力がありますが、残念ながらその全てを紹介することはできませんので、ここでは一部を紹介することになります。そのひとつは開放的な図書館(写真①)です。床に高低差を付け書架を見やすくしており、自然光のなかで、くつろげる地域の素晴らしい憩いの場となっています。アアルト建築以外にも、ヘルシンキ中央駅にあるラシ・パラッツィ(写真②)などの典型的な近代建築の秀作にも出会えます。

【光を追求した建築】

また、フィンランド建築で特に優れているのが光の扱い方です。夏の短い北欧の国々にとって、自然光の重要性は特別なもので、光を追求した建築がフィンランド建築の特徴であると言えます。アアルトの光の採り入れ方を進化、洗練させた作品などは、現代においても、世界最高峰のレベルであると感じます。

【トゥルクの町】

町として魅力的なのが、旧首都であるトゥルクです。首都であるヘルシンキでは多くのアアルト作品を見ることができますが、そのヘルシンキに比べ、緑が多く落ち着いた町並みに、ナショナル・ロマンティシズムを感じさせるものからモダニズム初期の作品まで無名の魅力的な建築に出会えます。

例えば、端正なファサードに、軽快な階段と開放的な閲覧室が魅力的なオーボ・アカデミー図書館(写真③)、外壁から屋根を独立させ柔らかい自然光を取り入れた空間のシベリウス博物館(写真④)、エントランスからダイナミックな高低差で変化のある空間が魅力的なヴァイノ・アアルトネン美術館(写真⑤)など、どれも詳細は知られていませんが、実際に訪れるとその洗練された空間構成の面白さに驚きを隠せません。

【観光案内所】

フィンランドの観光案内所は非常に充実しています。各地でアアルトの作品一覧や行き方の案内、見学予約、充実した資料を無料で入手することができます。勿論、宿泊先の案内、予約まで丁寧に対応してもらえ、治安もよく、観光しやすい国と言えます。

【フィンランド建築のベスト5】

優れた建築作品の多いフィンランドですが、やはり北欧の光をテーマにした建築が、上位を占めます。一方、アアルト作品では、森の中に心地よい中庭空間をもつ作品をピックアップしました。その心地よさは、現地で体験すべき必見の建築です。



①図書館(ロヴァニエミ)



②ラシ・パラッツィ (ヘルシンキ)



③オーボ・アカデミー図書館(トゥルク)



④シベリウス博物館(トゥルク)



⑤ヴァイノ・アアルトネン美術館(トゥルク)

1. ミュールマキ教会・教区センター 1984年 (ユハ・レイヴィスカ) (写真⑥)

北欧の光を捉えた建築。アアルトを初めとする世界中の建築家が求めた光を取り入れる手法を進化させた最高傑作と言えます。明るい内部空間には直射光、反射光、透過光が広がり、神聖なチャペル内部を満たしています。建築内部に光をどのように取り入れるかではなく、光にあわせて建築を造形する。建築は光を見せるための装置であると認識させられた作品です。



⑥ミュールマキ教会(ヴァンター)

2. トゥルク墓地 復活の礼拝堂 1941年 (エリック・ブリュックマン) (写真⑦)

光のコントラストが心地よい作品。外観は広大な墓地にたたずむ素朴なものですが、内部では祭壇脇から神秘的でやわらかな光が差し込む神聖な空間となっています。森をのぞむ側廊部分の天井は低く抑えられ、足元に明るい自然光が反射し、チャペル上部の陰影を美しく見せています。光のコントラストによって、建築の造形を浮かび上がらせているかのようです。



⑦復活の礼拝堂(トゥルク)

3. セイナツァロの村役場 1952年 (アルヴァ・アアルト) (写真⑧)

森の中に佇む村役場。赤レンガと森の緑と青く澄み切った空とのコントラストが美しいのですが、この建築のクライマックスはコの字型の庁舎棟と図書館棟によって囲まれた中庭にあります。中庭は2階部分の高さに上げられていて、ヒューマンなスケール感が親しみやすく、この上なく心地よい空間を構成しています。



⑧セイナツァロの村役場(セイナツァロ)

4. テンペリアウキオ教会 1969年 (ティモ&トゥオモ・スオマリネン) (写真⑨)

ヘルシンキの町中にある岩盤の教会。外観は十字架を示すオブジェがかりうじてこの岩盤が教会であることを示しています。内部はむき出しの岩壁ですが、そこは薄暗い洞窟ではなく、天井全面にかけられた円形のルーバー屋根から自然光が大胆に降り注ぐ神秘的な空間となっています。ルーバーからの光と影が刻一刻と変化する空間が最高に美しく神秘的です。



⑨テンペリアウキオ教会(ヘルシンキ)

5. マイレア邸 1939年 (アルヴァ・アアルト) (写真⑩)

深い松林の中に突然現れる美しい別荘。L字に配置された建物の内側にはうねる曲線のプールがあり、白い外壁と木の外壁が周囲の緑に調和しています。アアルトの作品では自由な造形、光の扱い方やディテールが重要となりますが、このマイレア邸ではセイナツァロの村役場、コエタロなどと同様に、自然の中のに的確に建築を配置した心地よさがあります。



⑩マイレア邸(ノールマック)

光の性質は異なりますが、光と影の建築の美しさは日本の伝統的な建築にも見ることができます。日本独特の光と影の建築を現代に再読し、進展させていければいいと感じます。

参考文献『ヨーロッパ建築案内』TOTO出版 淵上 正幸 著

『近代建築世界一周』ADP出版 桜本 将樹 著

建築士会横浜支部会員 桜本 将樹



横浜市からのお知らせ

＜横浜市木造住宅耐震改修促進事業について＞

東日本大震災を受け、平成 23 年度から木造住宅耐震改修の補助限度額を 75 万円引き上げています。平成 26 年 3 月までに工事完了するものが対象となっていますが、震災以降、申請が大幅に増加し、申請から工事完了まで平均で約 1 年を要していますので、申請の手続きはお早目をお願いいたします。（建築局建築企画課 耐震担当：045-671-2943）



新年の挨拶(賛助会一同)

謹んで新春の
お慶びを
申し上げます

(株)星	(代) 星 雅巳
(株)渡辺組	(代) 渡邊 一郎
(株)カンディハウスヨコハマ	(代) 藤田 哲也
東京ガス(株)神奈川都市エネルギー部	(代) 樺山 豊久
不二物産(株)	(代) 斎田 徳次郎
協立サッシ(株)	(代) 牛頭 憲治
(株)ヒライデ	(代) 平出 伸二
ヤマト建設(株)	(代) 小林 清一
横浜エレベータ(株)	(代) 勝 治雄
(株)ケー・エフ・シー	(代) 松下 真一
(株)キクシマ	(代) 菊嶋 秀生

* 順不同

広報委員会からのお知らせ

横浜支部ブログへの投稿をお待ちしております！！

支部へのご要望、支部だよりについてのご意見、記事掲載のご依頼など何でも結構です。書き込みの際は次の ID・PW をご使用ください。（ID：yokohama-sibu PW：blog4u）

<http://blog.goo.ne.jp/yokohama-sibu>

なお、横浜支部ホームページでは、過去の支部だよりをカラー版でご覧いただけます。

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/yokohama/shibudayori/shibudayori.html>

編集後記

昨年、支部だよりの記事をきっかけに息子とテニス同好会に参加させていただきました。何年かぶりのコートゲーム。かつての自分の様に動けないどころか先輩方の絶妙なプレーに翻弄されながら、時間が経つのも忘れ楽しんでできました。帰り道は親子で会話が弾み、大いに盛り上がりました。今年は合宿参加を目指そうかな。

…さて現在、横浜支部 HP のリニューアル準備を少しずつ進めています。各ご担当の方と連携を取りながらいきたいと思っておりますので、ご協力の程宜しくをお願いいたします。

巳年、再生復活を祈り、新しい年に期待し、明るいな年となりますように！！（小野寺）

編集 横浜支部広報委員会

雨森隆子・大貴 浩・桶師徳行・小野寺安紀子・玉野直美・丸山幸一・宮田欣哉・吉原直美

～よこはま支部だよりは、横浜支部の会員の皆様のみ配布しております～